

上小圏域河川整備計画(東御市)に係る学識経験者の意見

河川整備計画原案及び3河川共通事項				
区分	細別	意見の内容	対応方針等	備考
環境・文化財	魚類	一部を除いて魚が居そうな雰囲気は気薄であった。しかし、河川の改修方法によっては、魚の生息が可能になる。	河川管理者として魚が住める川づくりに努めていきます。	
		コンクリート底張実施箇所においては、所々ポケット(溜樹等)のような深みをつくれれば、魚の避難所となる。	今回整備を予定している3河川は極力コンクリートの底張を用いず改修をしたいと思います。	
		床止工が河川内に所々みられた。魚や生物の生息向上のため、上流に移動できるバイパス的な工夫が必要である。	河川敷きの余裕のある区間、用地取得可能区間、下流の魚類生息状況(魚類回帰想定区間含む)を確認し、魚道等の設置に向け努力します。	
		落差工には、魚類が遡上できる、魚道等を検討すること。		
	文化財	原案のP4にチョウゲンボウを追加。	河川整備計画原案に追記する方向で調整します。	河川整備計画(原案)P4
鳥類	セキレイ類が多数確認された。また、水生昆虫や小魚を餌とするクサシギを確認。出水時、川底がフラッシングされてしまうコンクリートライニングは適当でない。	今回整備を予定している3河川(道路横断BOX以外)は、コンクリートの底張りをを用いず改修を図ります。		
	カワセミ確認無し。しかし、巣穴が掘れたり、小魚が群れるような水環境を作れば戻ってこれる。よって、両岸コンクリートブロック張護岸は不可。	住宅密集地や市街地において、河川断面に余裕がもてない区間外においては、極力コンクリートブロック(河川環境対応のコンクリート2次製品は除く)は使用しません。		
	現在指定されている文化財と関連する工事はなさそうである。			
河川計画・構造	構造	東御市の河川は、住民の生活と財産を守るため、環境対策を後回してきた結果である。3河川は急流河川となるため、コンクリートで固めざるを得ないが、本来の川の機能を残すため最大限の努力が必要である。よって以下の記述を考慮すること。		
		地下浸透した水が川にもどれることと、逆に汚れた水が地下に浸透できること。	今回整備を予定している3河川(道路横断BOX以外)は、河川への浸透水の出入りがある断面構造とするため、コンクリートの三面張護岸は行いません。	
	計画	水生動植物が繁殖できるゾーンを造ること。	河積の確認を行いながら、詳細設計・工事の段階で検討します。	
	計画	人々が生活の中で水に親しめるゾーンを造ること。	コミュニティ施設の周辺や、住民等が水辺の利用を求める区間にあっては、良好な河川空間の創出に努めます。	
	構造	川幅は広く、河床は浅く。	河積の確認を行いながら、詳細設計の段階で検討します。	
	計画	ホタルや魚などの生息区間や保護区間を設けるのであれば、河川改修だけでなく周辺環境の整備も必要となる。また、この区間の上下流との関連も必要となる。	上下流や沿川との環境面での連続性に配慮します。	
		矛盾の無い総合改修になるよう全体計画を立案すること。		

上小圏域河川整備計画(東御市)に係る学識経験者の意見

金原川				
区分	細別	意見の内容	対応方針等	備考
環境・文化財	環境	用地の確保が難しく、親水性護岸検討不可能。		
		軒先を流れる、河川断面の小さい状況は、東御市の地形上の制約をよく反映している。ハイキングコースを整備して、市民が「川」のことを考える機会を提供する。	施設面では、市道との整合を図りながら河川の管理用道路の設置を計画します。また、河川愛護団体等と協力し、河川の環境啓発活動に努めます。	
		(主)真田東部線前後の未改修区間は、溪流環境が残されている留意すべき場所である。この河道構造を保存するように配慮する。但し、河畔の樹林は、洪水時流木の供給源となる恐れがあり、対応を考える必要がある。	『河川整備計画に係る公聴会』の中で、本区間の河川整備要望が有ります。一方で溪流環境良好区間であるため、当面維持管理のみの対応といたします。なお、流木対策については、治水上支障となる倒木や河川内立木の伐採を行います。	
河川計画・構造	計画	<p>洪水時の正常流量の確保及び、中流域に遊水機能を兼ねた溜池等を設置して洪水をカット、下流の計画高水流量を下げ、計画横断面の改善を図る。</p> <p>用地確保が困難で溜池(遊水池)等が作れない場合は、洪水時のみに利用する排水管渠を、河川に平行して道路に敷設する方法を検討して下さい。</p> <p>下流の市街地の河道は、河積が極端に小さく治水対策の困難さを感じられる。しかし、本河川は、流域面積が比較的狭く、高水の継続時間も短いことが予想される。上流部の河道沿いで休耕地などの活用が可能であれば、調整池を設けることによって、高水をピークカットし、洪水の負荷を減じ、河川改修の困難さを低減することも考えられる。調整池は、常時は公園等としても活用できる。</p>	<p>過年度において、現河川の拡幅、河川バイパス計画、排水管渠計画、遊水池等計画を比較検討し、経済性で最も優れた拡幅案で、概ね地元の詳細を得ています。</p>	
		<p>整備計画の策定にあたっては、まず地域の人々による自主的・主体的な検討が行われることが重要である。但し、その検討の過程では、かなり専門的な情報と知識を必要とするため、地域からの提案を実現性のある効果的なものとするためには、河川管理者による啓発と援助も必要である。</p>		<p>金原川は人家が連担している区域内を流下する河川であり、また近年、浸水被害も発生していることから、地域の皆様との関わりが深い河川です。地域の皆様と連携を図りながら、安全で愛される川づくりを目指してまいります。</p>
	構造	用地取得の困難さがあるが、川幅は広く、所々に遊水池を設け、自然石を使用した護岸整備が必要。	河積の確認を行いながら、詳細設計の段階にて対応します。	
要望	要望	真田東部線の下流部の床止の護岸整備を要望。	現地調査の上、対応を検討する。	
		海善寺公民館下流部分、国道18号横断BOXの早期改良を要望。	工事の進め方については、地元及び関係機関と協議を行いながら検討します。	

上小圏域河川整備計画(東御市)に係る学識経験者の意見

求女川					
区分	細別	意見の内容	対応方針等	備考	
環境・文化財	環境	環境を重視して落差工は出来るだけ斜路工とする。	近年、市街地内の落差工において、夜間水の落ちる音が住民の睡眠に支障をきたすため、段差を解消するよう多数の要望が出されています。また、住民の環境意識の高揚もあるため、河川縦断変化点においては極力スロープ式の床止工を設置します。		
		改修区間上流は、水質、底質の状態が良好。カゲロウ、トビケラの水生昆虫が多数生息し、「ホタルの里」としての保護活動が行われている。求女川の水質、底質は下流まで良好な状態にある。特に下流では、田中小学校の自然学習にも活用されており、この川の管理にあたっては、今後も河川環境の維持に配慮する必要がある。	ご指摘の点に配慮して維持管理に努めます。		
		田中小学校横のホタル水路構造を改善する必要がある。ゲンジボタルの生活史と生息環境を描いた図を参考に、図-1のように改善し、河床にも大小の礫を敷くことをすすめたい。	ご意見を踏まえ、構造の改善を検討します。		
		図-1 			
		中間部では、渡鳥バツを確認。渡り中の中継地となる環境を残す必要がある。	保全区間・区域を確認し、環境の維持に努めます。		
河川計画・構造	構造	丸山橋の直下流右岸の空き地を河川区域としての活用が可能であれば、右岸の平場を河床高まで掘下げた後、この下流にスリット機能を備えたえん堤を設ければ、治水機能と環境機能の増進が図られる。(図-2)	右岸の広場は、河川敷きです。(用地買収済み)環境・親水対策が行える区間です。良好な河川区間・環境の創出に努めます。		
		田中小学校校庭横の落差工は、子供たちが水遊びや水生昆虫の観察の際危険となる。構造の改善を検討する必要がある。	安全対策を検討します。		
		図-2 			

